



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔今「君たちは どう生きるか？」が問われている〕
～学ぶ心 内にあれば 物みな師なり～

曹洞宗の開祖・道元禅師の次のような言葉があります。
『古人曰く「聞くべし、見るべし」と。また曰く「経ずんば見るべし、見ずんば聞くべし」と。』
古人は「よく聞き、よく見よ」と言っている。また
「実際に経験していないなら見よ。目で見ていないなら耳で聞くがよい」とも言っている。
その意味は「ものごとは、耳で聞くよりは実際に目で見ることがよい。
目で見るよりは、実際に経験するが良い。まだ自分で経験したことがないならば、せめて見るが良い。
まだ見ていないならば、せめてよく聞くがよい」ということである。

私たちは昔、この乳幼児の人間教育に関わった時から
「五感を刺激する0歳からの人間教育」に取り組んできました。

前にも何度か書いたことがあるのですが、
私が知的障害児施設で学んでいた時に、年に何度か家庭訪問をした時のことです。
子どもたちの生活は、ほとんどが病院への通院と家の中での閉じ込められた生活だったのです。
まだ”座敷牢”があった時代ですから、
障害児が家に生まれたことを恥と考え外に出すことをしなかったのです。
私はそれを見て「環境不遇による精神遅滞」という分類があることを思い知らされたのです。
そして私は特に乳幼児期の五感を刺激する人間教育の大切さを知ったのです。

〔 五感の訓 〕

見て	倣い	観せて	学び
聞いて	考え	聴かせて	習う
触れて	知って	触って	記憶する
風に香りを嗅ぎ		五味 五色 五感で	四季を味わう

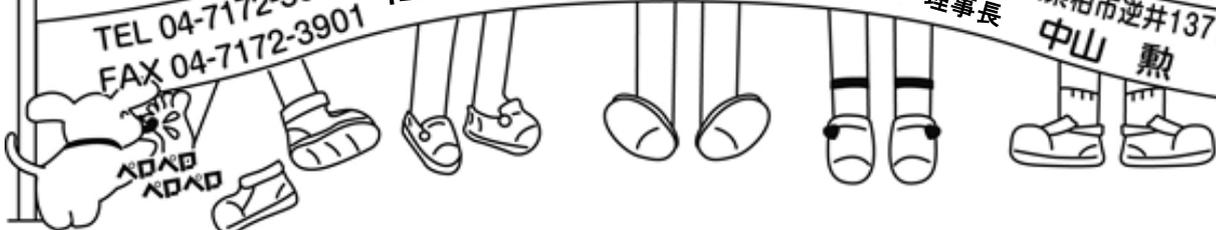


笑ったか ず一番 だっこされたか ず一番 やさしくされたか ず一番
遊んだか ず一番 でかけたか ず一番 チャレンジしたか ず一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939 FAX 04-7172-3901 社会福祉法人 童心会 〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



しかし私たち(社福)童心会では、脳科学から進化して
「比較認知発達科学」の知見を知り、次のような科学的エビデンスを実証されたとき
人間学と人間科学に基づく人間教育の必要性を感じ、実践に生かしてきました。

〔人の成り立ちのはじめ〕

1. 外受容感覚 = 学びのはじめ (五感の刺激・意識・Serve & return)
2. 自己受容感覚 = 愛された育ち (身体的接触・ふれあい・ぬくもり・思いやり・生命の保持)
3. 内受容感覚 = 抱きしめ言葉 (情動的接触・いたわり・はげまし・思いやり・情緒の安定)

私たちはこの「人の成り立ちのはじめ」の中で1. 外受容感覚の意味を深く考えてみたいと思いました。

外受容感覚とは外環境・四季環境を通して五感を刺激し、テラスの教室などから
ばら組(0歳児)さんたちがおにいさん、おねえさんたちがあそぶ姿を見て
「成りたい自分」に憧れ感覚的な知覚を高めていくことだと思っています。

また、意識とは心のことを言い、直感、第六感とも言います。

純粋に内面的な精神活動を指します。そして認識し、思考する心の働きの事を言います。

そしてこれらが総合されて「体・心・脳」が刺激され**興味・関心・好奇心**が生まれると私たちは解釈しています。

〔 学びの基盤 〕

- 1) 興 味 (見て倣い・観せて学ぶ)
- 2) 関 心 (聞いて考え・聴かせて習う)
- 3) 好奇心 (触れて知って 触って記憶する)

※意識＝認識し、思考する心の働き

そしてまた最後にあるServe & Return(応答関係)はやりとり、受けこたえと解釈しています。

即ち「新生児の学びのはじめ」を見つめると分かるのですが、赤ちゃんは生命を授けられ、

生まれおちてすぐに母親や周囲の人たちと”交わる”の事はじめは、

表情・仕草・眼差し・微笑みから始まり、それを親が周囲の人たちと満身の笑みで応えるといった

受けこたえのことをいうと考えました。ヒトはこのような応答の中で存在を認め合い、

存在を確認しあいながら人格を認め合っていると私たちは確信しています。

改めて私たちは今から、ここから、自分から「人として如何に生きるべきか！」

を見つめていかなければなりません。「自分を創る、人を創る」ことが私たちの使命だからなのです。

私は8月号の法人だよりのサブタイトルに～学ぶ心 内にあれば 物みな師なり～と書きました。

ばら組さん(0歳児)の時代からすべてのものに興味・関心・好奇心を持ち、そして認識し、

思考する心の働きがあつて”人がヒトとしての成り立ち”を学び続けているのです。

私たちの身近にあることすべてが「学ぶ心さえあれば物みな師なり」と言うのです。

再度私たちは「君たちはどう生きるか？」と問われています。

胸を張って私たちは学び身につけてきた「思いやりと生きる力」を次のように実行していきたいと思いました。

自分が自分として自分らしく

「一人ひとりが自ら課題をもって、自ら学び自ら考え 一日一生を生きる」

令和5年 8月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。

理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】